

～今が研究の「芽」を 発掘するチャンス～

田中学長

現在、研究協力会245会員の中で、企業会員は225社を占めていますが、その中で、実際に大学と繋がりがあがる企業は何社あるのかを調べてみたいと考えています。

田中会長

私は、現状では親会社の推薦によって入会しているところが多々あるのではないかと考えています。それを目覚めさせるのは、大学の姿勢であり、ぜひそのような活動をして頂きたいと考えております。

(※事務局注：約6割の企業会員が何らかの形で研究協力会活動に参加しています。)

田中学長

教員の研究テーマになるような問題を会社訪問することで発見し、大学の研究の成果が社会に還元されることが理想的です。

田中会長

中小企業では大学での研究テーマになるような問題は少ないことが考えられますが、まずは先生方のアドバイスにより現在の作業効率が高まったり、品質改善するというような、簡単なことから、意識は高まるのではないのでしょうか。

中尾前会長

まず小さい「芽」を見つけ、それを大学と一緒に大きくしていくという行為が、大企業では進んでいます。中小企業でも可能性を見つけたのです。大学の敷居は高いと思いますが、ちょっとまたぎ難い溝があったのではないかと思います。交流を持てば、自然と溝は埋まっています。その点、研究協力会はとてもよい役割を果たしています。

また、研究時間確保が大変な中、富山県立大学は、先生方が非常にいい研究成果をあげておられます。

田中学長

そのおかげもあり、研究協力会を通じた共同研究費などは、ここ2、3年は順調に伸びてきています。

田中会長

富山県立大学研究協力会の目的はまず先生方の支援が大きなポイントですから。

中尾前会長

「富山県立大学」ですから、県企業の我々が誘導し、支えなければなりません。大学の中には企業が立地して、事業が一体化しているところ

もあります。例えば、東北大学の3人の先生が作られたソフトウェア会社は中国の大企業で、大株主は国立大学法人東北大学で、その利益から更に様々な活動をしています。現在、不況で意気消沈しているところが多いですが、こういう時こそ次の何かを考えるチャンスと捉えることが出来ます。

田中学長

ポジティブな考え方でですね。

田中会長

そういう気持ちでないと、会社全体のモチベーションが下がってしまいます。

いろいろな方と話し、やるべきことに取り組んでいくことが大事だと考えています。

～富山県立大学が目指す姿～ 中尾前会長

学長が考える富山県立大学が目指す今後の姿などをお聞かせください。

田中学長

私は、今の富山県立大学では高校生が工学部で何を学び、その後のキャリアがどうなるのか想像し難いことに問題があると考えています。これは高校などに工学部出身の教員がいないことにも、原因があると考えています。時間をかけて、まずは近隣の高校から工学への理解と関心を高め、富山県立大学で勉強しようという意欲を持つ学生が増えて欲しいですね。

田中会長

工学に必要な数学や物理学の基礎を教える先生は、大体が教育学部や理学部出身で数学そのものを教えることとしているから、数学離れが進んでいるのではないかと思います。

田中学長

やはり自分の勉強していることが、社会でどう活かされているのかを実感すればモチベーションとなり、率先して勉強をするようになると考えています。私は学生の勉強する意欲を高めていきたいのです。

そのために教員の協力も必要です。まずは理解頂けるよう、呼びかけていきます。

※ここで中尾前会長、講義のため退席

～社会に出て行く学生に求めること～ 田中学長

会社が学生を受け入れるにあたり、どのようなことを求めておられますか。

田中会長

新入社員を採用するにあたっては、学校の成績だけでなく、一芸に秀出た人も非常に大事だということをいつも伝えていきます。採用担当者に聞くと最近皆、素直な学生が多いようです。最近の学生は、同じ環境で大事に育てられていることで、コミュニケーション能力の低下が心配です。豊かな個性のある「ガキ大将」のような学生が少なくなってきました。社会に出て大事なことは、聞く耳を持つというコミュニケーション能力です。コミュニケーションがとれると色々な場面で対処が出来ます。悩んでいる時も、上司や同僚に聞くことが出来ます。人の話を上手に聞かない、聞こうとする努力をしない、勝手に思い込んでしまう人がいる時は、周りの人間も神経を使います。

田中学長

人間力が大事なですね。

田中会長

叩かれ強いということが大事です。最近、3年以内に辞める人が多いのですが、現在私の会社では、今まで富山県立大学生を24名預らせて頂いて、辞めたのは1人だけです。その点においては、富山県立大学の卒業生は、叩かれ強いと思います。

田中学長

入社後の就業イメージをしっかりと伝えていく企業は、定着率が高いですね。入社後のギャップは、今後続けていくかを考えてしまいますからね。

田中会長

また、社会に出ると学歴ではなく一から勉強だと考えています。学歴を過剰に見ると、現場で実際に出来ることとのギャップが生じてしまいます。一から勉強し、モノづくりという現場を知っていくことは大切です。

私共は最低1～3年は現場でいろいろな工程を経験させます。その工程を知らないと工程設計、モノの設計、効率的設計、デザインなど、あらゆる事が出来ません。現場での経験は非常に大事で、これがなければ失敗を重ね、作業が遅くなってしまいます。



田中学長



中尾前会長

遠回りではありますが、現場での経験は、どんな簡単なことでも、突き詰めていくことにより本質的な問題が理解でき、そこをしっかりと勉強していくことで将来的に、素晴らしい人材が育っていくと思います。また、コミュニケーションをとることで、慕われる、信頼される技術者になって欲しいと思います。信頼されれば、円滑な情報交換の環境が整い、よい技術が育つと思います。私はよい技術がよい職場を作りだすと考えています。

田中学長

技術だけではなく、うまくお互い顔を突き合わせてやっていくと1+1は3にでも10にでもなるということなのです。

田中会長

同じ大学を出た人でも、現場を体験して学んできた人とそうでない人とは、大きな差となってきます。どの現場での仕事も大事にして、深く追求していくことでよい「人材」となり、将来に役立ってくるでしょう。

～人材育成について～

田中学長

現在、家庭環境的に子供たちがコミュニケーション能力を磨き難いのは、少子化で兄弟がおらず家庭環境の中での交流が出来ないことが原因だと考えています。兄弟がいると、人との付き合い方を兄弟間で学んでいくことができ、それによって社会力も形成されます。ところが一人っ子では、これが出来ません。大学でも同じ学科の学生同士で、表面的な付き合いですましていると、情報交換が出来ません。社会に出て、多少傷つけ合いながら、一生懸命「人間力」を磨くのだと考えています。

田中会長

現代の子供たちはある意味では恵まれています。逆にそこで弱さが出てくるのかもしれない。

田中学長

一つの要素だけでなく、それぞれの場面で活躍する人がいます。それぞれの人と交流を持つことにより、

統合的に向上していきます。それが実社会なのです。他人とうまく交流出来る能力を磨かなければいけないと思います。

田中会長

私は、他人と上手に関わる能力を会社の教育方針にしてほしいと思います。いい「人材」にするのは企業にとって利益になるわけですから、大事なことだと考えています。

田中学長

小学校から高校までの過程でコミュニケーションや人間力を磨く教育がうまくなされておればよいのですが、大学で磨かなければ企業が求める「人材」になれないというのが残念です。

田中会長

製造業においては、人材育成に対する企業の責任は大きいものがあると考えています。企業で人を育てなければ、本当の実力はついていきません。大学がいくら教えても、努力する人間でなければ、絶対育ちませんし、いくら言っても学生に響きません。

田中学長

大学でも丁寧な授業を心がけていますが、学生に響いていない場合もあるでしょう。モチベーションを高め、自分から勉強していくような教育プログラムを開発しなければなりません。学生に今学んでいることが社会に出てどのように自分の糧になるかを知るために、現場が見える授業があればと思います。しかし、ただの課外授業ではなく、大学に戻ってからのモチベーションを高める取り組みでなければなりません。

～今後の 富山県立大学に求めるもの～

田中会長

研究協力会の会員企業は、富山県立大学に他大学との違いを出して欲しいと期待しています。環境の先生もいらっしゃいますし、富山県の自然や様々な環境をうまく利用した富山県立大学の環境モデル技術を、ぜひ発信して欲しいと思います。

田中学長

昨年に富山県立大学は、文部科学省から優れた環境教育プログラムの取り組みを認められ、「環境リテラシー教育」を推進しています。工学部の数学やコンピューター、力学のセンスを磨くと同時に、新しく環境系のセンスをいかに身につけさせるかが一番のポイントです。

田中会長

環境問題への意識付けも重要です。環境問題は企業などは、自社の中で研究開発が出来ますが、中小企業ではそうはいきません。大学は、ここに着目し情報を提供して欲しいと思います。

田中学長

富山県立大学の教員には多くの研究成果や知識が沢山あります。何でもよいような相談であっても、地域連携センターのコーディネーターにお話し頂きたいと思います。そのようなシステムをどんどん広げていくことが重要です。

田中会長

本田技研工業の創業者本田宗一郎氏の言葉で「学校でカンニングはいけない行為だが、実社会ではカンニングをしても問題はない。いいところはどんどん真似しよう。」とあります。いいものを見て、真似し、更にいいものを開発することは非常に大事なことです。

田中学長

やはり自分の専門がどう他と結びつくかが重要です。そのためには、自身の見聞を広め、高くしていかなければいけません。富山県立大学もぜひとも外との付き合いを大事にして頂きたいと思います。

田中会長

これも本田宗一郎氏の言葉なのですが、「いい職場環境から、いい人材が育つ」とあります。これは大学も一緒だと思います。教育や人間関係も含めて、いい大学環境の中からいい人材が育って欲しいと思います。ぜひ、素晴らしい学生を育てる環境作りをやって頂きたいと思っています。

田中学長

わかりました。また富山県立大学の今後の取り組みに期待してください。

田中会長

ぜひとも、よろしく願いいたします。



田中会長